

日本付着生物学会年表

注：太字表示は主要項目です。

斜体字表示は、会誌発行、出版、その他情報発信関係です。

年		月 日	事 項
西暦	元号		
1972	S47	6月17日	付着生物研究会設立（付着生物研究会第1回研究集会） 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム「海産付着動物に関する現状と問題点に関するシンポジウム」（研究代表者平野禮次郎） 付着生物研究会の発足について決議（世話人）代表馬渡、事務梶原、平野、宮島、今島（事務局）東大海洋研資源生物部門
1973	S48	6月7～8日	（付着生物研究会第2回研究集会） 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム「海産付着生物の生態と被害に関するシンポジウム」（研究代表者馬渡静夫）
1974	S49	10月24～25日	（付着生物研究会第3回研究集会） 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム「付着動物と環境に関するシンポジウム」（研究代表者平野禮次郎）
1975	S50	3月	付着生物研究会会員名簿作成、会員に配布
1976	S51	4月	付着生物研究会連絡ニュース№1発行（会員数165名）
1976	S51	11月1～2日	（付着生物研究会第4回研究集会） 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム「海産付着生物の生態に関するシンポジウム」（研究代表者平野禮次郎、主催海洋研）
1977	S52	1月	付着生物研究会連絡ニュース№2発行
1977	S52	1月	研究会最初の会則施行（情報誌としての性格を規定）
1977	S52	6月	付着生物研究会連絡ニュース№3発行
1978		—	世話人代表に平野禮次郎世話人を選任
1979	S54	12月20日	「付着生物研究」第1巻1号を発行 新会則施行（研究論文誌としての性格を規定）
1981	S56	4月2日	昭和56年度総会（於：東京水産大学増殖学科会議室）
1984	S59	4月2日	昭和59年度総会（於：日本大学農獣医学部第2会議室） 昭和59年11月～昭和62年10月の世話人代表に梶原武世話人を選任
1986	S61	4月3日	昭和61年度総会（於：東京水産大学漁業棟217教室） 刊行予定の「付着生物研究法—付着生物の種類査定法・調査法—」の会員への無料配布を承認
1986	S61	10月5日	日本水産学会主催「海産付着生物と水産増養殖」（於：高知大学朝倉校舎）開催（関連シンポジウム）
1986	S61	10月6日	「付着生物研究法—付着生物の種類査定法・調査法—」付着生物研究会編（恒星社厚生閣発行）、会員に配布
1988	S63	4月1日	昭和63年度総会（於：日本大学農獣医学部1号館125講義室） 昭和62年11月～昭和65年10月の世話人代表に梶原武世話人を選任
1988	S63	4月1日	研究会事務局を東京大学農学部水産学会水産海洋学講座に置く（1988年4月～1989年3月）
1989	H1	4月2日	平成元年度総会（於：東京水産大学海洋生産B棟会議室） 研究会活性化に向けて世話人改選制度提案、世話人会で選挙方法等の検討を進めることを承認 「付着度の基準検討委員会（仮称）」設置の提案、梶原 武、宮嶋時三両世話人で検討を進めることを承認
1989	H1	4月2日	研究会事務局を（株）環境生物研究所に置き、事務局幹事を梶原世話人に委嘱
1989	H1	6月30日	第1回世話人選挙（6月30日投票締切り）実施 梶原武会員以下20名を選出
1989	H1	7月20日	世話人代表選任（7月20日推薦締切り）実施 梶原武世話人を選任
1990	H2	4月3日	平成2年度総会（於：東京水産大学高崎記念館会議室） 水産無脊椎動物研究所の企画により刊行予定の「海洋生物の付着機構」の会員への無料配布を承認
1991	H3	4月2日	平成3年度総会（於：東京水産大学高崎記念館会議室）
1991	H3	6月10日	「海洋生物の付着機構」（梶原武監修、水産無脊椎動物研究所編・恒星社厚生閣発行）、会員に配布
1992	H4	4月2日	平成4年度総会（於：日本大学農獣医学部1号館No.4講義室） 研究会活性化（少なくとも年1回の会誌発行、研究集会の開催）に向けて若手世話人による検討会を組織することを承認 平成4年度中（8～9月）に世話人を改選、その際平野、梶原両世話人が候補を推薦することを承認
1992	H4	6月1日	研究会事務局を北里大学水産学部に置き、事務局幹事を加戸世話人に委嘱
1992	H4	9月30日	第2回世話人選挙（9月30日投票締切り）実施 梶原武会員以下20名を選出
1992	H4	11月30日	世話人代表選任（11月30日推薦締切り）実施 梶原武世話人を選任

1993	H5	4月2日	<p>平成5年度総会（於：東京水産大学食品生産棟会議室）</p> <p>代表世話人より編集幹事に小川久朗会員を選任</p> <p>研究会活性化の一環として、会誌の性格・編集方針について若手世話人による検討開始を決定</p> <p>付着生物・付着現象に関する国内外の研究集会に関する情報を開始に掲載することを承認</p>
1993	H5	5月30日	<p>若手世話人会発足（メンバー：伊藤信夫、勝山一朗、加戸隆介、北村等、坂口勇、広松和親、山口寿之）</p> <p>第1回若手世話人会（於：日本エヌ・ユー・エス（株）会議室）</p> <p>研究会活性化のため定期的な会誌の発行、研究集会の開催等に向けて活動開始</p>
		10月26日	<p>第2回若手世話人会（於：日本エヌ・ユー・エス（株）会議室）</p> <p>次年度研究集会・総会の計画について検討し、決定</p> <p>世話人に幹事を加えた幹事会について、事務局が幹事の人数、役割、作業内容についてリストアップすることを決定</p> <p>研究情報収集に向けた会員アンケートの実施を決定、実務を事務局に一任</p>
1994	H6	2月28日	研究会活性化に向けた会員アンケートを実施
1994	H6	4月2日	<p>付着生物研究会研究集会（再開第1回、於：東電環境エンジニアリング㈱）</p> <p>梶原武、伏谷伸宏両先生の講演会形式で開催（終了後の懇親会を公式化）</p> <p>平成7年度からの会費値上げを決定、値上げ幅は世話人に一任</p>
1994	H6	4月3日	<p>1994年度第1回若手世話人会（於：東京水産大学海洋生産B棟452号室）</p> <p>研究会の運営実務に関して、運営委員、編集委員、庶務委員の役割分担を決定</p> <p>会費値上げについて検討、新会費を決定</p>
1994	H6	4月6日	馬渡静夫初代代表逝去
1994	H6	10月1日	投稿規定改定：1995年以降に刊行された会誌掲載文の著作権は学会に帰属と規定
1994	H6	10月4日	<p>1994年度第2回若手世話人会（於：電力中央研究所神山寮会議室）</p> <p>研究情報の収集・分担について検討</p> <p>投稿規定の改定について検討、とりまとめを北村、加戸両世話人に一任</p> <p>1995年度研究集会・総会の実施概要を検討、実務を運営委員および庶務委員に一任</p> <p>会則の見直しを行うことを決定</p>
1995	H7	4月1日	<p>1995年度第1回若手世話人会（於：東電環境エンジニアリング㈱）</p> <p>文献情報の収集方法、掲載スタイルについて検討</p> <p>会則の見直し内容について検討、総会議案として決定</p>
1995	H7	4月1日	<p>再開第2回研究集会・総会（於：東電環境エンジニアリング㈱）</p> <p>会則を一部改正（世話人の定数および選出方法を規定、世話人の役割分担を規定、世話人会の設置他）</p> <p>研究発表5題、招待講演2題で開催（開催形態が整う）</p>
1995	H7	4月1日	会費を値上げ：個人会費3,000円⇒5,000円、団体会費6,000円⇒10,000円、賛助会費10,000円⇒15,000円
1995	H7	6月23日	第3回世話人選挙（7月10日投票締切り）実施 梶原武会員以下20名を選出
1995	H7	7月18日	世話人代表選任（7月30日推薦締切り）実施 梶原武世話人を選任
1995	H7	10月19日	<p>1995年度第2回世話人会（於：日本エヌ・ユー・エス（株）会議室）</p> <p>学術団体登録に向けて体制を整備し、1996年2～5月に申請することを承認</p> <p>1996年度から改めて学会として活動することを確認、次回総会で学会設立の承認を得ることとした</p> <p>会則案の作成等の学会化に向けた実務者世話人会を開催することを承認</p> <p>東京湾海洋環境シンポジウムの共催を承認</p> <p>長崎大学水産学部主催の国際会議への協賛および会誌への案内掲載を承認</p> <p>会誌12巻2号について投稿論文数に関わらず刊行行することを承認</p> <p>会誌13巻1,2号の編集について、1996年4月1日に実務者幹事会を開催することとした</p>
1996	H8	1月19日	<p>実務者世話人会（於：電力中央研究所神山寮）</p> <p>平成1996年度研究集会において学会に移行するための学会名称、会則、学会誌名称案を作成</p>
1996	H8	1月	学会名称、会則、学会誌名称について文書により世話人会の承認を得る（20人中賛成18人）
1996	H8	2月13日	全会員に世話人会で承認された会則を送付し、3月31日の総会で学会移行の決議を行うことを通知
1996	H8	2月13日	日本学術会議の登録に関する説明会に世話人2名が出席
1996	H8	3月31日	<p>実務者世話人会（於：東電環境エンジニアリング㈱）</p> <p>会誌13巻1号の掲載内容を決定</p>
1996	H8	3月31日	<p>世話人会（於：東電環境エンジニアリング㈱）</p> <p>総会での学会移行決議に関して、反対意見について協議の上予定通りとすることを確認</p> <p>学会名称、学会誌名称の英文表記について確認</p>

1996	H8	3月31日	再開第3回研究集会・総会（於：東電環境エンジニアリング㈱） 学会組織への移行を承認 会則を大幅改正： 付着生物研究会を日本付着生物学会に改称 会誌「付着生物研究」を「Sessile Organisms」に改称 世話人会を運営委員会に改称し、運営効率化のため庶務、編集、企画、会計委員を設置 幹事会を設置 世話人代表を会長に改称
1996	H8	4月1日	日本付着生物学会発足
1996	H8	8月30日	新会誌 <i>Sessile Organisms</i> （通刊第13巻1号）を発行
1996	H8	5月	日本学術会議に学術研究団体の登録申請
1996	H8	9月1～4日	「海産動物幼生の餌料生物と環境制御に関する国際研究集会」（於：長崎大学）に協賛
1996	H8	9月9日	実務者会議（於：山口寿之委員宅） 1997年度研究集会の内容および学会誌13巻2号の掲載内容について協議
1996	H8	9月10日	日本学術会議から学術研究団体として登録される（日本学術会議会員推薦管理会より通知）
1996	H8	1月28日	「東京湾海洋環境シンポジウム－21世紀の環境保全に向けて－」（於：神田パンセ）を共催
1997	H9	4月1日	運営委員会 運営委員会の開催頻度を年2回以上とする 学会出版物の著作権保護のため、学協会著作権協会に複写に係わる権利委託を承認
1997	H9	4月1日	1997年度研究集会・総会（第4回 於：東京水産大学）
1997	H9	—	学協会著作権協会と学会誌の複写利用に係わる権利行使委任契約を締結
1997	H9	7月24日	会誌 <i>Sessile Organisms</i> が郵政省より学術刊行物の指定を受ける
1997	H9	10月31日	日本付着生物学会シンポジウム「付着生物の研究法－室内実験と野外観察」（於：電力中央研究所）開催
1997	H9	10月	運営委員選挙
1997	H9	12月	会長選挙
1998	H10	4月	学会事務局を北里大学水産学部から財団法人電力中央研究所応用生物部に移転
1998	H10	4月1日	1998年度研究集会・総会（第5回 於：東京水産大学） 会則を一部改正：名誉会員制度を新設、選挙細則を新設 平野禮次郎名誉会員、梶原武名誉会員誕生
1998	H10	11月8日	（平成11年度第1回実務者会議）学会誌のEnglish editorを琵琶湖博物館のMark J. Grygier氏に依頼を承認
1999	H11	4月5日	1999年度研究集会・総会（第6回 於：東京水産大学）
1999	H11	10月29日	第2回日本付着生物学会シンポジウム「付着性イガイ類の分類と分布－その実態に迫る」（於：船の科学館）開催 （日本貝類学会、日本水産学会、日本動物分類学会、日本ベントス学会、マリンバイオテクノロジー学会と共催）
2000	H12	4月5日	2000年度研究集会・総会（第7回 於：東京水産大学）
2000	H12	10月27日	平成12年度日本付着生物学会ミニシンポジウム「21世紀の付着生物研究の展望を語る」（於：千葉大学海洋バイオシステム研究センター）開催
2000	H12	12月8日	第3回東京湾海洋環境シンポジウム「沿岸埋立と市民生活」（於：東京水産大学）17学会共催
2001	H13	2月	学会誌を暦年単位で1巻ずつ刊行する方式に変更（2月に1号、8月に2号を刊行） 学会誌の体裁をB5版からA4版に変更し、表紙のデザインを改めた 印刷費削減のため学会誌の印刷所を国際文献印刷から東ブリに変更した
2001	H13	4月5日	2001年度研究集会・総会（第8回 於：東京大学農学部弥生講堂一条ホール）
2001	H13	7月30日	『黒装束の侵入者－外来付着性二枚貝の最新学』日本付着生物学会編を恒星社厚生閣より出版
2001	H13	11月9日	平成13年度日本付着生物学会シンポジウム「付着生物研究と電気事業」（於：電力中央研究所）開催
2002	H14	4月	会長：坂口勇委員が就任
2002	H14	4月	学会事務局を財団法人電力中央研究所応用生物部から財団法人海洋生物環境研究所中央研究所に移転
2002	H14	4月7日	2002年度研究集会・総会（第9回 於：東京水産大学） 会則を一部改正：会計年度を1月1日～12月31日とする
2002	H14	10月4日	（2002年度第2回運営委員会） 会員増加方策検討のため企画委員を中心にワーキンググループを設置
2002	H14	10月5日	日本付着生物学会30周年記念講演会（於：東京大学山上会議所）
2002	H14	12月20日	（2002年度第4回幹事会） 企画委員より「日本付着生物学会会員増加策」が答申される
2002	H14	—	Email活用に関するアンケート調査の実施
2003	H15	—	Emailによる会員（希望者）への情報発信開始
2003	H15	4月5日	2003年度研究集会・総会（第10回 於：東京水産大学）
2003	H15	7月	会員増加策に関するアンケート調査の実施

2004	H16	2月	会誌第21巻1号から賛助会員の無償広告掲載開始
2004	H16	4月6日	2004年度研究集会・総会 （第11回 於：東京大学農学部弥生講堂一条ホール）
2004	H16	11月18 ～19日	2004年度日本付着生物学会シンポジウム「フジツボと人とのかかわり」 （於：日本科学未来館）開催
2005	H17	4月5日	2005年度研究集会・総会 （第12回 於：東京海洋大学楽水会館）
2005	H17	1月25日	2005年度日本付着生物学会ミニシンポジウム「研究への想いを語る」 （於：新江ノ島水族館「なぎさの体験学習館」）開催
2006	H18	2月15日	「フジツボ類の最新学一知られざる固着性甲殻類と人とのかかわり」日本付着生物学会編を恒星社厚生閣より出版
2006	H18	4月5日	2006年度研究集会・総会 （第13回 於：東京海洋大学楽水会館）
2006	H18	4月27日	特許法30条1号に基づく学術団体として特許庁より指定を受ける
2006	H18	10月25 ～26日	2006年度日本付着生物学会シンポジウム「海洋生物の着生と変態」 （於：東京大学農学部弥生講堂一条ホール）開催
2007	H19	3月31日	2007年度研究集会・総会 （第14回 於：東京海洋大学品川キャンパス） 会則を一部改正：役員に副会長（2名以内）職を新設
2007	H19	7月14 ～15日	「ホヤの分類と同定 講義と実習による勉強会」 （於：横浜国立大学人間科学部理科教育実習施設）開催
2007	H19	7月29日	東京港野鳥公園行事「フジツボの子供を見てみよう」を後援および講師派遣
2008	H20	4月1日	2008年度研究集会・総会 （第15回 於：東京海洋大学品川キャンパス）
2008	H20	7月27 ～31日	国際会議「第14回海洋腐食と汚損に関する国際会議（14th International Congress on Marine Corrosion and Fouling）」（於：神戸国際会議場）を日本マリンエンジニアリング学会と共催
2008	H20	8月1日	共催国際会議のサテライトシンポジウム として「フジツボ生物学の最前線」（於：神戸大学海事科学部総合学術交流棟コンファレンスホール）開催
2008	H20	—	会誌が（独）科学技術振興機構により電子アーカイブ対象誌に選定される
2008	H20	—	電子アーカイブ化に伴い、1994年以前刊行の会誌掲載文について学会への著作権委譲に関する手続きを実施
2009	H21	3月31日	2009年度研究集会・総会 （第16回 於：東京海洋大学品川キャンパス）
2009	H21	9月20 ～24日	「国際甲殻類学会夏大会」（於：東京海洋大学品川キャンパス）を後援
2009	H21	10月3日	2009年度日本付着生物学会ミニシンポジウム「カワヒバリガイの侵入と対策」 （於：岩手県民情報交流センター）開催
2009	H21	10月3日	（2009年度第4回幹事会） 学会員以外からの会誌への投稿制度について検討するためワーキンググループを設置
2009	H21	10月9日	付着生物研究第1巻1号～Sessile Organisms第24巻2号のバックナンバー全てが電子アーカイブ化され、JSTが運営するアーカイブサイトJournal@rchiveに公開される
2009	H21	10月	会員窓口、会計処理等の学会事務局機能の一部を特定非営利活動法人CANPANセンター Acnetに委託
2009	H21	11月5 ～6日	日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会主催 ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」（於：函館湯の川花びしホテル）を共催
2010	H22	1月22日	（2010年度第1回運営委員会） （独）科学技術振興機構によるJ-STAGEに関する個別説明会開催 ワーキンググループにおいて学会誌への投稿のオープン化と併せてJ-STAGEへの参加に向けての検討を開始
2010	H22	3月31日	2010年度研究集会・総会 （第17回 於：東京海洋大学品川キャンパス）
2010	H22	4月	学会事務局を財団法人海洋生物環境研究所中央研究所から北里大学海洋生命科学部に移転
2010	H22	2月26日	梶原武名誉会員・元会長逝去
2010	H22	10月15日	梶原 武先生追悼シンポジウム「我が国の付着生物研究の足跡と今後の展望」 （於：北里大学薬学部コンベンションホール）開催 梶原武先生を偲ぶ会（於：八芳園）開催
2011	H23	3月11日	東日本大震災発生 当日予定されていた第1回幹事会中止（予定議題は後日Emailにより審議） 3月28日に東京海洋大学楽水会館で開催予定の2011年度研究集会・総会（第18回）は中止とした 総会審議は全会員に書面を送付し、活動内容および予算について賛成多数により承認を得た 研究集会での研究発表については、発表要旨の提出をもって発表がなされたものとし、学会誌28巻2号に掲載された
2011	H23	6月	北里大学海洋生命科学部に置く事務局所在地を岩手県大船渡市から神奈川県相模原市に移転
2011	H23	9月16日	日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会主催 第2回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」（於：千葉工業大学）を共催
2011	H23	10月28日	2011年度日本付着生物学会シンポジウム「環境変動と付着生物」 （於：東京大学大気海洋研究所講堂）開催
2011	H23	12月	学会誌電子ジャーナル化について会員へのアンケートを実施

2012	H24	1月20日	(2012年度第1回運営委員会) 名誉会員規程を制定：名誉会員の推薦基準、推薦・決定手続等を規定
2012	H24	3月30日	2012年度研究集会・総会 （第19回 於：東京海洋大学品川キャンパス） 名誉会員規程制定に伴う会則改正：名誉会員に関する条文について名誉会員規程との整合を図った 山口寿之会員を運営委員会の推薦に基づき名誉会員に任命（承認）
2012	H24	11月8日	日本付着生物学会40周年記念シンポジウム 「環境と付着生物との係わりの視点から今後10年先の付着生物研究を展望する」（於：東京大学農学部弥生講堂一条ホール）開催
2013	H25	1月	学会事務局機能の一部委託先を特定非営利活動法人CANPANセンター Acnetのサービス終了に伴い株式会社国際文献社アカデミーセンターに移転
2013	H25	3月22日	Sessile Organisms30巻1号よりJ-STAGE上で発行（電子化）
2013	H25	3月30日	2013年度研究集会・総会 （第20回 於：東京海洋大学品川キャンパス）
2013	H25	7月1日	平野禮次郎名誉会員・元研究会代表逝去
2013	H25	9月20日	日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会主催 第3回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」（於：神戸大学海事科学部総合学術交流棟コンファレンスホール）を共催
2013	H25	10月3 ～4日	「 コケムシの分類を勉強する会 」（於：筑波大学下田臨海実験センター）開催
2013	H25	12月	日本付着生物学会ニュースレター第1号発行
2014	H26	3月21日	平野禮次郎先生追悼講演会 （於：東京大学農学部弥生講堂一条ホール）開催 平野禮次郎先生を偲ぶ会（於：フォーレスト本郷）開催
2014	H26	3月22日	2014年度研究集会・総会 （第21回 於：東京海洋大学品川キャンパス） 会則を一部改訂：①編集委員長の選任および編集委員長の役割の明確化 ②事務局長を新設し、その役割を明記 ③幹事会メンバーとして副会長を明記 ④学会誌刊行規定を廃止し、会則に統合 投稿規則を改定：学会誌のオープンアクセスの電子化に伴い、大幅に改訂
2014	H26	7月11日	第17回「海洋腐食と汚損に関する国際会議」の サテライトシンポジウムとして第2回国際シンポジウム 「Current Topics on Barnacle Biology」（於：シンガポール国立大学熱帯海洋科学研究所）共催
2014	H26	9月25日	日本付着生物学会ニュースレター第2号発行
2014	H26	10月24日	2014年度日本付着生物学会ミニシンポジウム 「外洋・深海の付着生物～フロンティア研究の現状～」（於：海洋研究開発機構横須賀本部講堂）開催
2015	H27	3月27日	2015年度研究集会・総会 （第22回 於：東京海洋大学品川キャンパス）
2015	H27	9月16 ～17日	日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会主催 第4回ワークショップ「船底塗料と海洋環境に関する最新の話題」（於：函館国際水産・海洋総合研究センター）共催
2015	H27	10月2 ～3日	2015年度日本付着生物学会シンポジウム 「動くのをやめた海の生き物たちー海洋付着生物の分類と生態ー」（於：東京大学山上会館）開催
2016	H28	2月24日	北太平洋海洋科学機構主催 James T. Carlton博士特別講演「東日本大震災による津波に伴う漂着瓦礫がもたらした海洋無脊椎動物の越境移動について」（於：銀座貿易ビル）開催
2016	H28	3月30日	2016年度研究集会・総会 （第23回 於：東京海洋大学品川キャンパス） 会則を一部改訂：会費滞納者に対する自動退会について手続きを明確化 投稿規定を一部改訂：①学会誌掲載論文のオープンアクセスポリシーの明確化 ②投稿論文の英文校閲の明記
2016	H28	4月11日	日本付着生物学会ニュースレター第3号、第4号発行
2016	H28	5月22 ～24日	フジツボの分類と生態を勉強する会 （於：京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）開催
2016	H28	10月21日	2016年度日本付着生物学会シンポジウム 「動くのをやめた海の生き物たちの展示ー特に教育利用や研究の観点からー」（於：名古屋港水族館・名古屋港ポートビル4F講堂）開催
2017	H29	3月30日	2017年度研究集会・総会 （第24回 於：東京海洋大学品川キャンパス楽水会館）
2017	H29	4月3日	「新・付着生物研究法」を恒星社厚生閣より出版
2017	H29	5月18日	環境省・北太平洋海洋科学機構主催 国際シンポジウム「東日本大震災により流出し、北太平洋を横断した漂流物について」（於：東京海洋大学楽水会館）を共催
2017	H29	5月20日	市民講座「津波で流されたものはどこに行ったか」（於：ハーネル仙台）共催
2017	H29	10月21 ～22日	2017年度日本付着生物学会シンポジウム 「着生機構はどこまで解明されたか？～化学シグナルからバイオリングナル化学へ～」(伏谷着生機構プロジェクト発足25周年記念)（於：東京海洋大学白鷹館）開催
2017	H29	11月6日	日本学術会議公開シンポジウム「沿岸地域を再生させるための水産業を考える」（日本学術会議講堂）後援
2018	H30	3月26日	2018年度研究集会・総会 （第25回 於：東京海洋大学品川キャンパス白鷹館） 坂口勇会員ならびに伏谷伸宏会員を運営委員会の推薦に基づき名誉会員に任命（承認）
2018	H30	10月12日	2018年度日本付着生物学会シンポジウム 「刺胞動物の付着：その不思議でユニークな生態や機能」（於：海洋研究開発機構 横浜研究所 三好記念講堂）開催

2018	H30	11月29 ～30日	日本マリンエンジニアリング学会 海洋環境研究委員会主催 第5回ワークショップ「海洋環境影響を評価するアッセイ法に関する最新の話題」（於：鹿児島大学水産学部付属図書館）共催
2018	H30	12月12日	（2018年度第3回幹事会） ニュースレター廃止：総会資料をEmailもしくは郵便により送付することで情報共有を図る
2019	R1	3月26日	2019年度研究集会・総会（第26回 於：東京海洋大学品川キャンパス楽水会館）
2019	R1	7月4 ～5日	イソギンチャク類の臨海勉強会 （於：千葉県立中央博物館分館 海の博物館）開催
2019	R1	10月18日	2019年度日本付着生物学会シンポジウム「三陸における付着生物研究」 （於：東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター）開催
2020	R2	3月26日	2020年度研究集会・総会（第27回） 新型コロナウイルス感染症拡大のため開催中止 総会議決事項は3月末日までに意見、異議の申し立てを可能とし、4月1日に承認となった 講演要旨集はホームページからのダウンロード可能とし、後に学会誌37巻1号に掲載 これに掲載された講演は発表されたものと認定
2020	R2	10月30 ～31日	日本付着生物学会・日本マリンエンジニアリング学会海洋環境研究委員会2020年度シンポジウム「海洋利用と生物付着の制御」をオンラインで共催
2020	R2	—	幹事会5回開催のうち、第1回を除く4回をオンラインで開催
2021	R3	3月23日	2021年度研究集会・総会（第28回） 新型コロナウイルス感染症拡大のためオンラインで開催
2021	R3	4月29日	公式SNS（Facebook, Twitter, Instagram）を開設、広報活動を強化
2021	R3	10月15日	日本付着生物学会 2021 年度ミニシンポジウム「フジツボを学び、食す」 を オンライン開催
2022	R4	3月25日	2022年度研究集会・総会（第29回） 新型コロナウイルス感染症拡大のためオンラインで開催 会則を一部改訂：役員の任期を2年から3年に変更、企画委員会を新たに設置し企画委員長職務を規定
2022	R4	10月6 ～7日	日本付着生物学会創立50周年記念シンポジウム「付着生物はおもしろい！ー付着生物研究で社会を豊かにー」 （於：東京大学大気海洋研究所講堂）を開催 50周年記念グッズとしてクリアファイル2点及びランチバッグ（いずれも富士うらら企画委員デザイン）を作成し当日参加者に配布、以後希望者に販売するとともに新規入会者に配布
2023	R5	3月28日	2023年度研究集会・総会（第30回 於：東京海洋大学品川キャンパス白鷹館多目的室）
2023	R5	10月16日	日本付着生物学会 2023 年度ミニシンポジウム「海藻類研究の今ー基礎科学から応用までー」 （於：東京大学大気海洋研究所講堂）をハイブリッド方式で開催